

## 公募展を終えて

チーム・コヤアラでは公募展をどの出品者にとっても意義のあるものにするために試行錯誤してまいりました。その結果が講評と交流を重視するスタイルになりました。審査はそれぞれの素材や技法に守備範囲を持つメンバー全員で、写真をよく見てディスカッションして通過者を絞り込み、実作品展示の第二次審査では全員が合意した候補数名のなかから、さらなるディスカッションによりチーム・コヤアラ賞を決定し、奨励賞は各メンバーが一人を推薦する形に落ち着きました。四谷シモン賞、羽関チエコ賞は、第二次審査で本人が決定しました。

4回の開催を経て、リピーターの方が過去の経験を元に新たに挑戦する姿を見るのは嬉しく思いました。たとえば着物の古布を使うのを止めてフォルム中心の人形に挑み、自らハードルをあげた方が何人かいらっしゃいました。他にも難しい挑戦をされた方もいました。それぞれの方が、挑戦に新しい可能性や出会いがあると信じて続けて頂きたいと思います。

一方、球体関節人形を作る多くの方は、技術的に円熟期を迎えられているようです。技術的に申し分ないのですが、各自が自分の方向性を見直し、整理されたほうが良いのではと思うことがありました。もし憧れの美しい少女人形を作りたいと思うならば衣装をしっかりと作り、それをきちんと着せて見せるためにクロスボディにするという選択肢もあると思います。シュールなヌードのエロティシズムにこだわるならともかく、方向性が未整理なままハードなボディを相手に着付けに苦労されているような人形をよく見受けました。

また、造形が自在な石塑粘土は多くの方が使われていますが、布や木、ビスクなどに比べると素材自身の味が無いので、作品の密度をあげるためには工夫や加工が必要だと感じました。

そのようなことを、私たちも公募展を通して考えられました。会場では一般の来場者の方から「いろいろな人形があって楽しい、面白い」という声を頂くことができたのは嬉しかったことです。人形という自由な媒体の面白さを探り、課題に取り組む活動に、チームで取り組めたらと思っています。これからもよろしくお願いたします。(羽関)

# INFORMATION

## KOYAALA 通信発行時期が変わります!

次号より、この KOYAALA 通信発行月は3の倍数月の1日とさせていただきます。ご理解をよろしくお願いいたします。

今後の発行予定

37号 2019年3月1日

38号 2019年6月1日

39号 2019年9月1日

40号 2019年12月1日

DM 同封希望の方へ

翌号の37号は3月1日発行につき同封対象は3月初旬から5月中の展示) ※次号は、ひと月早まりますのでご注意ください。

翌々号の38号は6月1日発行 (DM 同封対象は6月初旬から8月中の展示)

## チャリティー創作人形展

会期 2019年3月12日～3月17日

主催 チャリティー創作人形展実行委員会

会場 偕楽園公園センター (水戸市見川1-1251)

入場無料

チーム・コヤアラも後援しています。

チャリティー創作人形展実行委員会

石島博子 / 薄井ひろ子 / 杉山順子 / 寺門好子 / 中田美和子 / 吉川菊枝 / 知神けい子

## 次号はロシア「ART OF DOLL」レポート

今号で掲載を予定していましたが、今回の紙面の都合上、次号で掲載させていただきます。

作品写真2~3点(全体・アップ・裸形) サイズ:ハガキ大。  
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。  
\*何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人1点になります。  
\*応募作品はウェブ上で公開されることもあります。(講評は紙面のみ掲載)  
\*応募書類は返却いたしません。

### 個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤアラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤアラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤアラの趣旨に沿ってDMクラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤアラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

### 各お申し込み・連絡先

チーム・コヤアラ  
東京都東村山市久米川町3-27-57 HAZEKI office 内  
TEL 042-395-7547 (担当 ハゼキ)  
FAX 042-395-7975  
URL <http://koyaala.jp/>  
Email [team\\_koyaala@yahoo.co.jp](mailto:team_koyaala@yahoo.co.jp)

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ (HAZEKI office)  
©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。



# KOYAALA 通信 No.36

Jan. 2019



KOYAALA 通信は、チーム・コヤアラがコヤアラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。発行日3月1日、6月1日、9月1日、12月1日

謹賀新年 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。 チーム・コヤアラ一同

## 全ページ特集 第4回創作人形公募展を振り返って

チーム・コヤアラは2012年から創作人形公募展に取り組み、隔年で開催してきました。

昨年第4回を迎えるまでのあいだに、各地でも創作人形を対象にした様々な公募展が開催されるようになりました。チーム・コヤアラの公募展の特徴は、素材や方向性の違う作家活動中のメンバーが出品者とのディスカッションを通して先の目標を模索することを優先課題としたことです。しかし、チーム・コヤアラのメンバーの個々の状況が多忙になり、会場のNHKふれあいホールギャラリーが2019年をもって閉廊することを機に、第4回をもってこの公募展を終了することにいたしました。今回の展示作品を見て今までの継続が成果として現れ始めている手応えを感じました。今回は受賞に値する作品が多々あり、力作なのに賞を差上げられなかった応募作品も少なくありませんでした。来年は「それからの人形達展」に取り組みますが、公募展を継続できないことには残念な思いが残ります。チーム・コヤアラとしても、これからの新しい活動の仕方を考えてまいります。今回の通信は第4回公募展特集号として、公募展に寄せられた関係者の皆様の声をここに記録しますので、今後の参考にして頂ければ幸いです。公募展に関わった方は、今までの経験を糧にして次のステップに進まれることを、チーム・コヤアラ一同願っております。また、今まで私たちの呼びかけに応じて、審査や参考出品、講評にご協力頂き、各回を有意義な内容にくださった作家の皆様に、心より感謝申し上げます。



チーム・コヤアラ賞

常見一奈 「常世長鳴鳥」

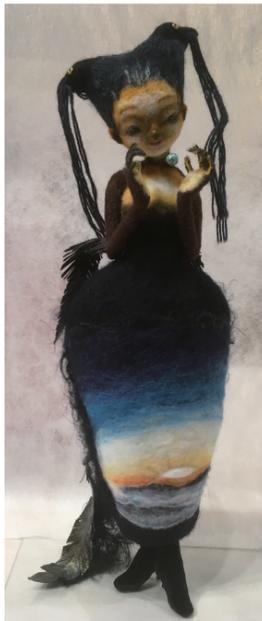
日本神話の天岩戸伝説に登場する夜明けを告げるために集められた鳥を現代的に描いています。体の線の美しさ、繊細な色づかいやデザイン、装飾、素材や表情などすべての調和がとれていて、魅力ある作品となっています。



四谷シモン賞

マカフェルト工房 「リラックス」

ほんとうに涼しい風がふいています。色の美しさ、夜明けの神秘的な瞬間をカラースをモチーフに捉えた独創的なアイデアが一目で好きになりました。(四谷シモン)



羽関チエコ賞

風らい坊 「明けの明星」

色の美しさ、夜明けの神秘的な瞬間をカラースをモチーフに捉えた独創的なアイデアが一目で好きになりました。(羽関チエコ)



コヤアラ・フェス賞

山田ミンカ

落ち着いたトーンのビスクと衣装、色彩感、人形の表情が統一がとれていて、会場で好評を博していました。

## 受賞者の声

- ①受賞の感想**
- ②作品に力を入れた点**
- ③今回の公募展全体についての感想**
- ④今後の目標、予定**

●**チーム・コヤーラ賞 常見一奈**

① 第1回に出展、第2回をお休みして第3回、そして今回最期の第4回でチーム・コヤーラ賞という素晴らしい賞を頂きまして心の底から飛び跳ねています。

2012年の第1回から6年、技術面では向上していますが根底にあるものは変わっていません。人形に喜怒哀楽は込めないということです。表情で言えば何を考えているのか分からない、そんな顔を作っています。人形はあくまでモノ、感情は人間側で感じてほしい、という思いです。そんな作風が高評に通じたのかは分かりませんが、凄く自信にも繋がりましたのでこのまま邁進していきます。

② 身体のS字に力を入れました。バランスを崩さず女性としての美しいライン、脚の流れからのつま先立ち、流れというものは強く意識しました。

③ 今回の公募展含め他公募展などにもよく出品するのですが、人形制作レベルは本当に高くなっていると感じます。技術面は勿論ですが、その精神性やチャレンジしようとしていることなど勉強になることが多々あります。個人的には羊毛人形に強く惹かれました。

④ 今回の受賞は未定ですが人形は作り続けています。今はテディベアジョイントを使ったぬいぐるみ感のある人形を作ってみたりしています。目標は永遠に作り続けていく事。当たり前ですが作ることを楽しむ事です。ずっとずっと作れる時間が持てる人生でいたいです。

●**四谷シモン賞 マカフェルト工房**

①この作品に目を留めて頂けたことをとても光栄に思います。手探りで人形を作ってきた中で、一つの方向性とまではいかないかもしれませんが認められる点があったということがとてもうれしく、また勇気づけられました。四谷シモン先生、スタッフの皆様、ありがとうございます。

②明確に意識していたわけではないのですが、キャラクター性を控えめにして、風景が感じられるような作品を作ろうとしていたように思います。

③交流に重点が置かれているところがとても特徴的だと感じました。参加できなかったのですが、会期中の作品講評や最終日の講評会は貴重な機会だと思います。応募することに気を取られていて、そういったイベントに目が向いていなかったのが今更ながらもったいなかったなと思っています。

④今回の受賞をヒントにしながら、多くの作品を作って視野を広げていきたいと思っています。

●**羽関チエコ賞 風らい坊**

①今回で3回目の参加となる公募展です。毎回先生方からの講評やアドバイスが次への作品へと繋がっているので、その延長線上の「羽関チエコ賞」の受賞だと思うととても嬉しいです！

②全てにおいて力を入れました。イメージも作り方も素材も…光が当たっているようなグラデーションは難しかったのですが、今までの概念を取り払い作った点です。

③羽関さんやコヤーラスタッフの皆様、公募展終了までの準備や会場作り、毎日の在廊など…想像しただけで頭の下がる諸々のお仕事のおかげで楽しく人形展に参加できた事、感謝いたします！ありがとうございます！

④目標:羊毛フェルトで、もっとチャレンジして自由に表現できる人形を楽しんで作ること。
予定：5月にコヤーラで知り合った11人の人形展に参加します。

●**奨励賞 広野多衣子**

①昨年から半年間挫折していて辛い時期がありました。今年の5月に友人のアドバイスでやっと立ち直り、また作り始めての「奨励賞」だったので、すごく嬉しかったです。

②ブリーツスカートの表現です。フレアースカートで一旦乾かした後でパイシート状にした粘土を細い棒状にカットしてフレアースカートに貼り付けていきました。それから木彫を習ってミニチュアカゴと木製椅子も最近作れるようになりました。

③3回参加して顔見知りの人が段々増えてきて、友達作る絶好の機会です。作家さんそれぞれが作風やテクニックが違うのでお話を聞くとすごく勉強になります。

④今回、羽関様に「ファッションポーズドールという新しいジャンルを作り上げましたね」と言葉をいただけてすごく嬉しかったです。1体作るごとに腕も上がるので気長に丁寧にあきらめなくて100体位作って（現在35体）個展をしたいです。

●**奨励賞 有田依旬子**

①たくさんの素敵な作品、技術力の高い作品の中で、私の作品が賞をいただいてしまっているのだろうか!?と、嬉しい反面驚きでいっぱいでした。今回の「innocent」という作品は構想を思いついた時に、どうしても作り上げて公募展に出品したいと強く思いましたので、なんとか形にすることができたという満足感もありました。

②二人のポーズとその体がどのように重なり合うのか、二人の絡みが今回の作品の核心だと思っていますので、そこを構想通りに作り上げることができるよう、何枚も下絵を描き、等身大の設計図も何度も書き直しました。私にとってはこれまでにないくらい動きのある作品だったので、下絵・設計図の段階が一番難しく、悩ましい時間でした。

③人形という表現手段でここまで自由に、ここまで幅広く表現していたんだとすごく刺激を受けました。

④アート系のギャラリーで展示させていただくことが多いため、自分が人形を作っているのか彫刻を作っているのかいまだ判然としませんが、作りたいのは人物像であり、またそこに

秘められたストーリーや内面でもあるので、人形／彫刻といったジャンルに捕らわれず自分の表現したいものを自分なりに表現できるよう、表現力・技術力を磨いていきたいと思っています。2019年は4～5月頃に地元・大田区にある町工場をリノベーションしたギャラリーの企画展に参加する予定です。

●**奨励賞 成瀬麻里子**

①いただけるとは思っていなかったのととてもうれしかったです。

②見てくださった方がご自分の幼い頃やご家族のことをふっと思い出してくれたらいいな、と思いながらつくりました。

③パーティーで一人一人の作品をスクリーンに映して 長所を見だし講評していただけるのは参加した方々みんなの喜びです。この公募展の暖かさを感じます。

④長年動物たちと生活してきて彼らをモチーフとした郷土色のある作品や市松人形に興味があります。実は人形本体よりも人形の衣装づくりが好きなので刺繍（自己流）やパッチワークなどなどチクチク（針で縫う音）と楽しみたいです。

●**奨励賞 古城真理**

①削り続けて制作した作品が「思いも表現できているのだろうか」「魅力があるのだろうか」など分らないでいました。前回はとても嬉しいことに 四谷シモン賞を頂けました。でも、まぐれの1体かもしれない…もう一度チャレンジしてみようと思募しました。今回は「欠点がありません」姉と妹の関係性の表現もよく表せている」など評価して頂き私の表現したいことが伝わっているとわかり、心が軽くなりました。自分の立ち位置を見つけられないでいた私でしたが、頂けた数々の言葉で、「モヤモヤした不安の先に行けそうだ」と思えるようになりました。

②お詣りする子供の「おぼつかない指」が愛らしくて、表現しようと思いました。構図を考えたとき 姉妹のお詣りする姿が浮かびました。姉妹の関係性の間で「お姉ちゃんの一生懸命に願いごとをしている指」との対比で生かされると思いました。指だけではなく、「二人の間の心の表現も大切」との思いで、造形に力を入れました。細部の表現も好きで、大切と思っています。それに見る人に感じてもらいたい作品場面にある空気感にも思いを込め、力を入れました。ここが一番難しかったです。

③多様である事を認めてくださる公募展であったと改めて思いました。自由に質疑応答ができ、交流ができる場、でもとても苦手な気がするのする場。参加の回を重ねたことで話すことが出来るようになり、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。自分への講評だけでなく、他の作家の方々への講評もたくさん聞くことができ、会場のコメントも頂けて、作家同士話すこともできて、再び考えることが楽しくなってきました。大好きなことをやっているはずなのに、何かに縛られている感がありました。多様性を感じ、観ることで、自分で自分を窮屈にしていると気づかせてもらいました。この公募展に参加していなかったら、今でもどうして良いのか悩み、行き詰まっていたと思います。率直な講評を頂ける、厳しいけれども必要なこと、制作に励む力を下させる楽しい場、このような公募展が無くなるのは 応募しようとしていた作家さんたちにとって、すごく残念なことです。私は臨む機会があったこと、幸せです。

④自信のなかった私でしたが、前に進む勇気が出たことで気づきました。「日常の何気ない一場面を表現することをシリーズ化しても良いのでは」と羽関さんから言葉を頂き、今までの作品でもうシリーズ化になっている!!と気づきました。このシリーズは一つのパターンとして続けてゆこうと思っています。まずは、個展ができるように、このパターンで制作に動き、作品の数を増やさなくてはと考えています。次のステップへ進みます。

●**奨励賞 はちす**

①奨励賞という意味を辞書で引かせて頂くとその中に「今後の期待や激励などの意味を込めて」とあり、これから人形を作る事に背中を押された様でうれしく感謝しております。

②蛙になった王子をどのようにしたら深い森の中に閉じ込める事が出来るか。きのこの裏にも蜘蛛の糸を張りめぐらしたい、など思いは募り出来上がったのがここまででした。もっとあーしたい、こーしたいと思っても、まだまだ頭の中で騒ぐだけで手が作わない。もっともっと力を入れたいところだけです。

③広いジャンルからの作品があり楽しい公募展でした。

④まだまだ自分の表現したいものが出来る腕と技が足りません。なんとか少しでも納得出来る作品を作り上げること。それが目標です。

来年の「それからの人形たち展」にむけて、また励みたいと思っています。

●**奨励賞 葉**

①ほんとうにぎりぎりまで応募を迷っていたので、ただただうれいです。奨励賞は、ぬかるみのような創作の道を前に進んでいくためのエネルギーになります。

②おにんぎょうを、こちらの思いを受け止めてくれるような愛らしい空虚な器ではなく、見た人の中に空想と物語が広がるような、行間たっぷりの文章のような作品にしたいと思い、表情やボディを工夫しました。

③会場へ行くことができなかったので、この公募展の最大の魅力である講評を受けることができなかったのが心残りです。地方在住者にも参加しやすく、また参加しやすいコンクールでした。今回が最後なことが残念でしたかたありません。

④動物をモチーフにした作品は自由にのびのびとやれるのですが、ヒトガタではまだまだ暗中模索の状態です。自分の中でこれだ！と思えるスタイルに辿りつくようにおにんぎょうを作り続けていきたいと思っています。

●**コヤーラ・フェス賞 山田ミンカ**

①まさかコヤーラ・フェス賞をいただけるとは全く思っておりませんでしたので、うれしい驚きでいっぱいです。賞を頂けたことは大きな励みになり、創作意欲が以前に増し更に強くなりました。本当にありがとうございます。

②みさらしは、英題は“unbleached/undyed”と言います。成長するうえで大抵の人が吸収するもの（旭世術や知恵など）と、抜けていくもの（純粋さや意地など）がそのままで、自己の芯が揺るがない強い子をイメージしました。素朴さの中に、その生命力を感じてもらえたらと思いながら制作しました。

③作り手によって、全く違う様子を見せる人形たちから刺激をいただきました。

④作る上で悩むことはしばしばありますが、続けてゆくほど自分の輪郭が濃く見えてくる様に感じます。2019年は、更に、おもむくまま作品を作ってゆきたいと思います。新しいビスクの原型を作りつつ、石塑や桐塑の人形制作を進めているところです。本年は展示会や即売会に参加予定です。色んな方とお会いできることを心より楽しみにしています。

## ゲスト作家の声

#### ●出品者と印象に残ったやりとり

**素材選びに工夫を（水澄美恵子）**

固定ポーズ2、3人の方に共通していたこと。造形はしっかりしているのですが衣装の素材選びをもう少し工夫したほうがいいと思いました。布の硬さ、風合いなど新しい生地だけで無く古びたもの」色あせた生地なども取り入れることによって説得力ある表現ができると思います。

**具体的なアドバイス**

・「千里走単騎」横山千恵 全体のバランス、組み合わせ、一点一点の素材感の相乗効果を考えて欲しいと思います。（よねやまりゆう）

・「少女標本」ユエ 漠然とは無く、もっと封じ込め(box)の意味を、追求すると、密度の濃い表現が出来ると思います。（よねやまりゆう）

・「明けの明星」風らい坊 前回の時にお話しした内容を覚えていてくださり今回のグラデーションを使った作品を制作されたとのこと。講評会に出席している私たちも何かお役に立てたかとうれしい気持ちです。（高橋操）

**素材にしばらくれないで（井祐裕子）**

「羊毛フェルトで造形性を追求できないので悩んでいる」という問いに対して。「細部造り込みにも量感を表現するにも粘土の方が向いているから、羊毛は羊毛として置いといて、修行のつもりで粘土をやってみては?」と答えると、『そこをあえて羊毛でやることで羊毛フェルト界に新風を起こそうかと思っていた』と。でも「なんなのだ、その羊毛フェルト界というのは!?」と思った私は、「羊毛フェルト同士でライバル視してるのなんて無意味です！小さい世界観を捨てて自分の目指す造形のためにあらゆる挑戦をしなくてはいけません!」と力説。私は、素材へのこだわりが自分を縛っていたら「創作」の入り口にたどり着けない!と思ったのでした。

**何も欠点がないのが欠点とは（矢部藤子）**

この問いに、前回も含めて2度ほど遭遇しました。技術がある程度の水準に達した人は「技術の先にあるもの」について感っているのかもしれない。

このような高度な壁にぶつかってしまった人に対して、私ごときではなかなか具体的なアドバイスが思い浮かばず言葉に窮してしまいますが、しかし、その悩みこそが表現者としての深く長い旅路のスタート地点なのではないかと思うのです。

しっかりと下準備をして技術力という名の武器をきちんと整備して懐に入れたら、もうあとは安心して旅を楽しむでゆけばいいのです、感性のアンテナを高く伸ばして。せっかくの旅先で景色も見ずに背中を丸めて武器をごしごし磨いてばかりではつまりません。武器はその形や輝きよりも、いつ、どう使うか?ということのほうが大切なのです。具体的なアドバイスを超えて、自分自身の心の持ちようや、物事の真の魅力や意味を見つける力を学ぶしかありません。それはたぶんすべての作り手が等しく持っている課題で、すべての作り手が同じような長い旅路の途中にいるのです。

**説明を放棄する（矢部藤子）**

無理に作風を変えようとするより、自分の今持っている特徴や美点を冷静に分析し、「作りたいもの（テーマとして目指すもの）」と「作れるもの（自身の作風、技術）」とを一度別々に切り離して考えてみて、そこからどちらかを歩み寄らせるという工夫をしてみてはどうでしょうか。

たとえば社会性のある重いテーマに取り組みたいのに自分が作る人形の顔はどうしても幼なすぎるといような場合、そのテーマを自分の中でよく噛み砕いて、幼く愛らしい顔だからこそ訴える力がより強くなるような構成を試みるのです。そのためには表現したいテーマを上滑りではなく自分なりに深く理解してしっかり咀嚼しておく必要がありますが、今まで培ってきた技法や作風を生かした、その人ならではの表現方法がきっとあります。強引なポーズや説明的な小物や衣装じゃなく、人形そのものが自ら醸し出すものを作り手がきちんとキャッチして、目指すテーマにどう寄せていくか、あるいは方向転換するか、考えながら慎重に作り進めてみてください。幸せな人だけが微笑むわけではありません。

### コヤーラ FES 賞 集計結果

会場投票順位（20票以上の方） 投票総数 630

①「みさらし」山田ミンカ 38票

②「願いごと」古城真理 36票

③“A Scorching Hot Day（焼けつくような暑い日）” 広野多衣子 30票

④「音色につれられて」ミスミ姿羅 29票

④「明けの明星」風らい坊 29票

⑤「innocent」有田依旬子 25票

⑥「雪どけ」新家智子 22票

⑦「対峙（ミツバチとスズメバチ）」けん・じゅういち 20票

⑦「花逍遙」細貝まい 20票

憂鬱な顔をしている人がすべて不幸なわけではありません。人間の感情は複雑で、人形も同様です。

たとえ訴えたいことを精一杯作品に盛り込んだとしても、すべての人がそれを正しく理解してくれるわけでもありませんから、時には説明を放棄して、見る人の想像や解釈にゆだねるというのまた意外と楽しいものです。

#### ●公募展の作品全体から受けた印象

●**月光社 つじとしゆき**

公募展と同規模のプロの展示を比べて初めに感じた事は、公募展は全体的に色に関しての感性が鈍いような印象がありました。その中で評価された作品は色使いが上手な作品が選ばれる傾向があったように感じました。

●**高橋操**

回を重ねて、出品作品がグレードアップしている感じがします。いろいろな人形を受け入れているこの公募展で、講評会などを生かして自分の人形を制作している参加者の熱気のようなものを感じます。

●**矢部藤子**

全体的に技術が高くて圧倒されますが、「思い」だけが先走る、あるいはその逆に技術の高さが「思い」を隠してしまうということもあるのだと思いました。いずれの場合も、みんなそれぞれに悩みの中にいる。そのことに共感しました。

●**水澄美恵子**

皆さん上手です！毎年レベルアップしているのを感じます。

●**井祐裕子**

個性が強いものが印象に残りがちなのですが、よく見ると一つ一つどれも魅力的でした。

●**よねやまりゆう**

今回は、技術、表現等今までの中で、全体的に良く出来ていたと思いますが、個人的には、スケール感の有る作品を見たいと思います。

#### ●自由な感想・意見など

●**月光社 つじとしゆき** 公募展には様々な地方から応募があるにも関わらず地方色を感じる事はあまりないです。海外からの作品を見るとその国がどの様な所なのか興味を持つことが多くの有り、FANTANIMAの図録などはその様な興味に応じてくれるものでもあります。日本は狭小な国ながら地方、地方によって多様な郷土玩具を生み出した歴史があり、それらを生み出したその地方の風土や、素材、その地に伝わる物語などを利用した作品なども見てみたい様に感じました。

●**高橋操** 公募展に美術系の学生などがもっと参加してくると人形の裾野も広がってくるのかなと思います。そんななかで私も自分の人形を進化させていけたらと思っています。

●**矢部藤子** チーム・コヤーラが企画する展示会は作り手同士の対話の機会が多く大変勉強になり、たくさん刺激を受けます。公募展は何かの形でぜひ継続していただきたいと切に願いますし、いつか私も挑戦してみたいです。

●**水澄美恵子** 人形を見る側によって人それぞれ違うのであまり気にせずに自分の想像力を信じて内なるものを吐くまま表現していった方がいいと思います。

●**よねやまりゆう** 製作に関し、何度も壁に当たり、クリアーし、技術+感性+何か?（予測出来ない力）を得てください。オーラを感じる作品を見てみたいです。

●**井祐裕子** 公募展のために、一年かけて一つの人形を作るというのも素敵なことだと思っています。販売するためのものではない、人に渡してしまうなんていくら値段をつけても嫌だというくらい大切な作品を作れるなら、それが幸せ、という在り方を肯定したいのです。作って売る職業としての作家の喜びは理解されやすいものです、発表の場での販売が当たり前になっている現実があります。

しかし「趣味で作っています」ということの素晴らしいさを、もっと大切にしていもいいと、こんな世知辛い時代だからこそ言いたいような気もします。

もちろんそれは、いくらでも反論の余地があるので、現実的な発言になりえないわけですが、…。